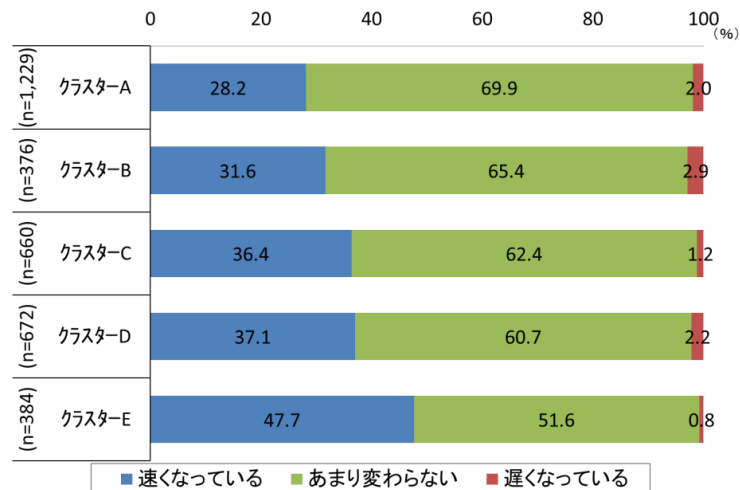


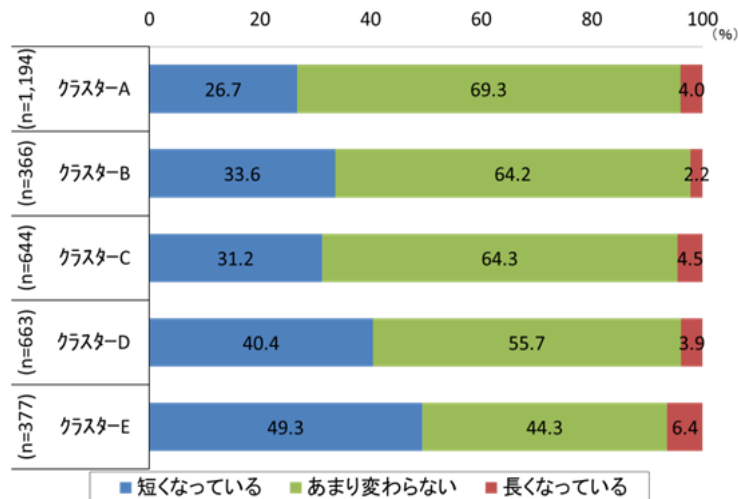
第4次産業革命に対応する日本企業の状況

- 企業規模に関わらず、I o Tを積極的に活用している企業ほど、経営のスピードが速く、製品開発のリードタイムが短くなっている。
- 従業員100人以下の中小企業においても積極的にI o Tの活用を行っている企業がいる。

【5年前と比較した意思決定のスピードの変化】



【10年前と比較した主要製品における開発のリードタイムの変化】

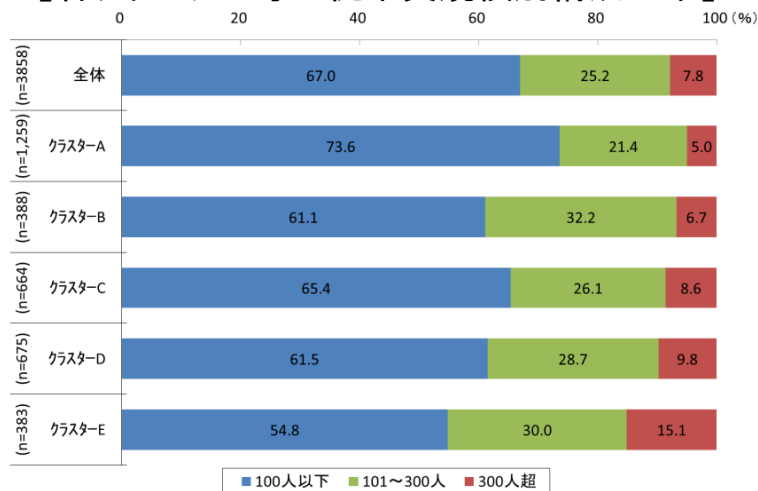


低
↑
I o T の活用度合い
↓
高

【クラスター区分ごとの特徴】

区分	特徴
クラスターA	【IoTの総合的な導入・活用度合いが最も低い】 ・IoTの活用については総じて消極的であり、特に「生産」部門や「販売」部門における取組度合いが低い。
クラスターB	【IoTの総合的な導入・活用度合いがやや低い】 ・IoTの活用については総じて消極的であるが、「生産」部門における活用には比較的、積極姿勢が見られる。
クラスターC	【IoTの総合的な導入・活用度合いは中庸】 ・「部門間連携」や「販売」部門でのIoT活用に積極的である。
クラスターD	【IoTの総合的な導入・活用度合いがやや高い】 ・「3Dシミュレータ」を最も積極的に活用している。 ・「部門間連携」でのIoT活用に積極的である。
クラスターE	【IoTの総合的な導入・活用度合いが最も高い】 ・IoTの活用全般に対して総じて積極的であり、特に「3Dプリンタ」の活用状況は極めて高い。

【各クラスター毎の従業員規模別構成比率】



備考:IoT活用に向けた取組の実施状況を点数化し、左記の特徴にて最も積極的な企業群をクラスターE、最も消極的な企業群をクラスターAとして分類。